

甲状腺結節(腫瘤)超音波診断基準

	<主>				<副>	
	形状	境界の 明瞭性・性状	内部エコー		微細 高エコー	境界部 低エコー帯
			エコーレベル	均質性		
良性	整	明瞭 平滑	高～低	均質	(-)	整
悪性	不整	不明瞭 粗雑	低	不均質	多発	不整 無し

＜付記＞

1. 超音波所見として客観的評価の中から有用性が高い(明らかなもの)を「主」とした。また、悪性腫瘍の90%を占める乳頭癌において特徴的であるが、主所見に比べ有所見率の統計学的差異が低い所見を「副」とした。
2. 内部エコーレベルが高～等は良性所見として有用である。
3. 粗大な高エコーは良性悪性いずれにも見られる。
4. 所属リンパ節腫大は悪性所見として有用である。
5. 良性所見を呈する結節の多くは、腺腫様甲状腺腫、濾胞腺腫である。

6. 悪性所見を呈する結節の多くは、乳頭癌、濾胞癌、髓様癌、悪性リンパ腫、未分化癌である。

7. 良性所見を呈しうる悪性疾患は、微少浸潤型濾胞癌および10mm以下の微小乳頭癌・髓様癌・悪性リンパ腫である。

(1) 微少浸潤型濾胞癌は、良性所見を示すことが多い。

(2) 10mm以下の微小乳頭癌は、境界平滑で高エコーを伴わないことがある。

(3) 髓様癌は、甲状腺上極1/3に多く、良性所見を呈することがある。

(4) 悪性リンパ腫は、橋本病を基礎疾患とすることが多く、境界明瞭、内部エコー低、後方エコー増強が特徴的である。

- 8. 悪性所見を呈しうる良性疾患は、亜急性甲状腺炎、腺腫様甲状腺腫である。

(1) 亜急性甲状腺炎は、炎症部位である 低エコー域が悪性所見を呈することがある。

(2) 腺腫様甲状腺腫では、境界部低エコー帯を認めない場合や境界不明瞭なことがある。